

## 入選

### やさしさにつつまれて

山形県 鈴川小学校

6年 工平柚稀

みなさんは、車いすを利用したことがありますか？

私のおばは、現在神奈川県で一人暮らしをしています。仕事も料理も車の運転も何でもできる人ですが、おばは小学5年生のときにある事故で体が不自由になってしまい、車いすなしでは生活できなくなってしまいました。

車いすでの生活は、大変なことがたくさんあります。例えば、高いところにある物を取ったり、落ちている物を拾ったりすることや、坂道を登ったり下ったりすることがとても難しいそうです。

今、おばが住んでいるところでは、スーパーで買い物中、上の棚の商品が取れなかったり、手の指が動かなくてうまく物が取れなかったりしていると、「お手伝いしましょうか？」と声をかけてくれる人がたくさんいるそうです。

また、駅やショッピングモールでエレベーターの順番待ちをしているときに、「お先にどうぞ」と言ってゆずってくれる人もいて、そういうこともとても助かると教えてくれました。

おばは、私が生まれたときから車いすを使っていたので、わたしも自然とお手伝いができるようになっていました。車から車いすに移るときや、買い物中に荷物を持ったり、落ちたものを拾ったり、考えなくても体が動きます。その中でも、私のしたことに対しておばがうれしかったことは、相手のペースにあわせてお手伝いをしてくれることだそうです。

車いすは歩くのに比べてスピードがおそく、手にもしょうがいがあるため、バッグに物をしまったりするのに時間がかかってしまうときも、わたしがおばのペースにあわせて待っていてくれることが、とてもうれしいのだと教えてくれました。わたしは正直に言って、あまり意識していなかったことなので、「そんなこと？」と思いましたが、

「ちゃんとそのときの状況を見て、相手のペースにあわせてお手伝いをするって、簡単なようでとても難しいことなんだよ。そういう気づかいができる柚稀が大好きだよ。」と言われて、私もとてもうれしくなりました。

おばは、「私はたくさんの人たちに助けってもらいながら買い物したり、生活したりしているんだよ。」と教えてくれました。私たち家族だけではなく、ほかの人もおばを気にかけて優しくしてくれていることを知り、あたたかい気持ちになりました。

自分にとっては、「そんなことでいいの？」と思うようなささいなことでも、だれかの助けになることがあります。私もおばだけではなく、困っている人を見かけたら、「手伝いますか？」と声をかけたいと思います。小さな親切がたくさん集まって、近いしょう来、体の不自由な人たちが今以上に暮らしやすい社会になればいいな、と思いました。